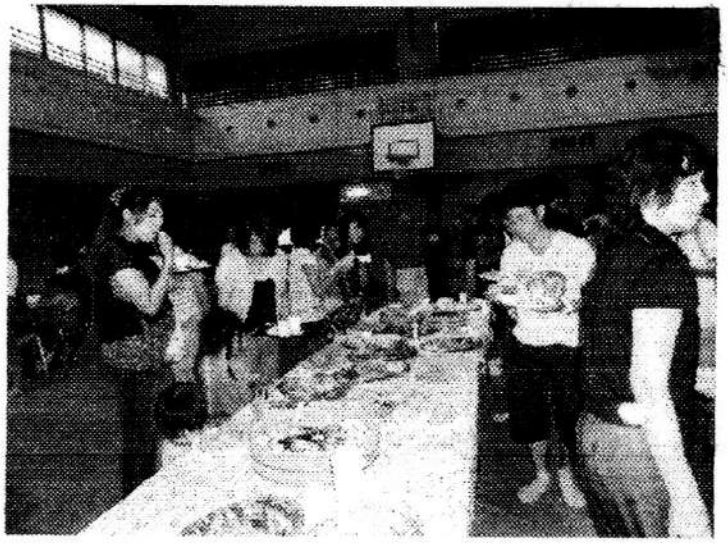
福島愛育園の子どもたちを迎えて

辻堂2区　益満 雅晴

福島愛育園の子どもたち55名と付き添い職員25名計80名が、8月20～24日、藤沢と寒川、愛川（キャンプ場）を訪れた。この児童養護園は福島市の東の放射線量の高い処にある。避難もままならず自由に外で遊べない環境の中で、年何回かの静養・リフレッシュが必要とされており、こちらの呼びかけで今回の滞在が実現した。藤沢教会も藤沢市、寒川町などとともに後援メンバーとして、21日の歓迎夕食会を担当、「サポートチーム」の曽根さんと「卒原発を考える会」の浅野さんの下、当教会のほか外部ボランティアー計約45名で220人分の食事を作り、好評であった。宿泊は白浜養護学校と高砂小学校のほか、浮田久子さん（辻堂2区）宅に幼児4名が職員とともに泊まった。

残念だったのは、予定した子ども同士の交流が不十分であったことである。斉藤愛育園園長も「子どもたちは疲れも忘れて楽しんでいました。交流は今後の課題ですね」と話しておられた。今回の福島第1原発事故で一番大きな被害を受け、それが今後も長く続くのは罪の無い子どもたちである。福島の思春期の少女は「私はお嫁にいけるのか？子どもを生んで良いのか？」など深刻な悩みを持っていた。この状況を他地域の子どもも理解し、絆を持てればと今回の交流は企画された。子どもたちは守られなければならない。例えば、当教会で販売している二本松の野菜は専らお年寄りが食して、子どもには食べさせない方が良いと私は思う。何故かと思う方は、先に当教会でも上映した映画「内部被ばくを生き抜く」を見ていただきたい。この問題は自分で学び、考え、自分で決めなければならないことである。

この映画の中で、子どもを守ろうとする母親たちのパワーの台頭が言われているが、確かに反原発デモに行くと子どもをつれた若いお母さんたちの参加が目立っている。子どもを守るために自ら国の在り方を変えていこうという力、これは脱原発のうねりとなって多くの人の共感を呼んでいる。近く行われる総選挙こそ、我々が持つ権利で国を変える最大の機会だ。「卒原発を考える会」では立候補者とその政党の卒原発への政見を質し、皆さまに情報を提供して行きたいと考えています。是非この機会に「カトリック司教団メッセージ」の志向している原発廃絶のために、我々の力を結集していこうではありませんか。



中3　石川 世理花

私の祖母がクリスマスに「愛育園」へ行って一緒に過ごしたのがきっかけです。8月21日愛育園の人たちが、この湘南の海で地引網をすると聞いて、友達2人をさそって参加しました。私にとってこれは初めての経験だったので楽しみでした。捕れた魚は、アジ、キス、しらす、(クラゲ)など思ったよりも沢山でした。漁師さんがすぐにお刺身にして私たちに食べさせて下さいました。愛育園の人たちは、海を見てとてもはしゃいでいました。夕食は白浜養護学校で、教会のボランティアさんが作ってくれた色とりどりのごちそうに、私と友達は大はしゃぎでした。きっと愛育園の人たちも同じ気持ちだったと思います。夕食を食べながら、鎌倉のおなりよさこいキッズの踊りをみて、みんなご飯を食べるのを止めて見いっていました。そして3人の人たちが、原発事故について話しました。

私は3月11日は、まだ大阪に住んでいました。友達と遊んでいると、電話が掛かってきて、東日本大震災があったことを知りました。私はその話を聞いていて、改めて地震は遠い場所で起こったけど、身近にあるんだと感じました。愛育園の人たちは見えない放射能で脅かされて、外にあまり出歩けないし、海やプールで私達みたいにのびのびとはできないと思うので今回の企画は愛育園の人たちにとってとてもいい経験になったと思うし、私たちもその日1日は存分に楽しみました。そして私が一番心に残ったのは、愛育園の人たちが歌をすごい大きな声で歌って、私の心がほんわかしたことです。

東北ボランティア活動サポートチーム報告

東日本大震災へのボランティアサポートも次第に実績を上げ始めております。8月からの状況を報告致します。

岩手県

カリタス釜石は8月、9月は学生を中心にボランティアの参加がありましたが、10月は非常に少なくなっているのでご協力をお願いしたいとのことです活動は主として仮設での「おっ茶っこ」を通して現地の人々との交流と心のケアーとのことで、ご婦人やご高齢の方々でもできますとのことです。(丸山 展生)

宮城県石巻ベース

女性のボランティアを募集しています。仮設住宅で暮らす被災者の方々とのお茶会に参加するなどの役割もあります。また短期間でも結構です。9月に藤沢教会からの女性のボラティアが現地に入りました。10月にも入ります。徐々に増えて行くといいですね。(小藤 晃)

福島原町ベース

8月22～23日に原町ベースに行って来ました。南相馬市の仮設住宅で生活している人達を訪問し、藤沢教会からお届けてしている物資（毛糸・生地など）がどのように活用されているか、他に要望はないかなどのお話しを伺いました。新しい企画でネクタイの再利用の小物作りも始まり、その作品が徐徐に戻って来ており、第2・3日曜日に「福祉コーナー」で販売していますので、是非、皆様のご支援をお願い致します。

また、警戒区域が解除された小高地区に入りました。津波の爪痕がそのままで、住民の方が家の前で佇んでおられる姿に何も出来ない私達の無力をしみじみと感じました。

8月21日「愛育園」の子供達が「保養」に藤沢に来ました。交流会では藤沢教会が食事作りに約30名の方のご協力を頂き、子供達と楽しいひとときを過ごしました。「保養」の冬休み・春休みと継続の支援が出来ればと考えています。（曽根 和子）

被災地物産品販売支援チームより

毎月第2，3日曜日の福祉コーナーでは、宮城県石巻の仙台味噌などの醸造品や、福島県の農産物販売をしております。お陰様で8月と9月で24万円強の売り上げをすることが出来ました。石巻の味噌・醤油や酢などをひいき(贔屓)にしてくださる方々もだんだんと増えてきたように感じております。また、福島産の桃、ブドウなどの果物も人気が出ております。これからもいっそうご協力をお願い致します。

なお、福島農産物販売については、雪の下教会の山口神父様の声かけで、湘南地方の横須賀大津、三笠、逗子、雪の下、由比ヶ浜の各教会と藤沢で協力しながら進めることになりました。(牧野 進一)

石巻ボランティア体験記

善行　内藤 千早

皆さん、今日は。私はこの夏より藤沢教会にお世話になっています内藤千早と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、今回、私は7月11日から20日までの10日間、宮城県は石巻市内にあるカリタス石巻ボランティアベースにてボランティア活動を行いました。その報告をさせて頂きます。未曾有の被害を出した東日本大震災から早いもので一年半が経ちました。テレビ等の報道も徐々に少なくなっています。関東に暮らす私達にはともするともうあの災害は過去のものとさえ思えるようです。しかし、今回私は現地に足を運び「震災は決して終わっていない！」との思いを強く持ちました。初めて石巻市内に入った時、街中の損害はあまり感じず意外にも平和な印象を受けました。建物は比較的原型を留めており街中は大分片付いていました。しかし、街の中にある日和山から見ると海側に面した部分がまるで爆撃を受けたように何もかもなくなっていました。そして町外れには山のように高い瓦礫の山々が見えました。瓦礫については全国の瓦礫の受け入れ拒否が強いため処理は進んでいない状況です。宮城県ではこれからかなりの時間をかけて新しい処理場をいくつか建設して自分たちで処理をしていく方針のようです。全国の自治体が積極的に受け入れを行っていればもっと早くに解決できる問題なのに残念な思いです。

石巻ベースでの活動は私の場合半分以上は毎朝車で約１時間移動した南三陸町で同じカリタスの米川ベースの人達と合流し南三陸町で漁業支援や瓦礫処理を行いました。今回の被害で漁師の人々の道具や漁具(網等)もみな流されてしまいました。道具等は全国からの寄付で何とか揃いつつありますが、それを自分達の海に合うように網を切ったり調整をしなければなりません。また繁忙期はとても人手が要るのですが、震災を機に漁師を廃業する人が多く人手が足りません。人を雇うにもその元手もありません。そこでボランティアが網切りや牡蠣の種付け、ホタテ漁の片付け等を手伝います。町育ちの自分にとってはとても面白く、ぶっきらぼうだけど話すととても温かい漁師さん達との交流は印象深いものになりました。また、残りの日々は石巻市内外にある仮設住宅への訪問もシスターに連れて行って頂きました。私が行った所は野蒜地区から避難されてきた方々の住宅です。カリタスではこういう仮設住宅を定期的に回り、ビーズ細工の教室を開いたりして交流を深めています。この催しは仮設の女性の方中心に大変人気で多くの方々がいらっしゃってました。こういう催しは普段孤立しがちな仮設の方々の貴重な交流の場になっていると実感できました。　カリタスの基本姿勢は「共にそこにある(いる)」です。カリタス石巻のシスター杉田はこう話しました。「何か特別なことを行うのではなく傷ついた人々にそっと手を差し伸べてそばにいてあげる、それがその人にとって明日の一歩を踏み出す力になることもある」。私は今回この体験を通じて今まで遠いものだった被災地を身近に感じることができました。またこんな私でも必要としてくれる人々がたくさんいるということが実感できました。大変貴重な体験となりました。今回、交通費の助成をしてくださった藤沢教会の東北ボランティア活動サポートチームの方々ありがとうございました。

南相馬市の子ども達を招いて楽しく交流！

藤沢2区　小野 精司

「福島の子ども達を湘南に呼ぼう！」プロジェクトに協賛した私達は、昨年夏休みに福島市の児童養護施設・福島愛育園の子どもと職員85名を藤沢へ5日間招いて楽しく過ごして頂きました。この冬休みには南相馬市の家族5組16人を4日間招きました。実行委員会のメンバーは、夏休みと同じくNPO法人（こども達に未来をin湘南）を中心に、湘南教組や江ノ電労組、カトリック藤沢教会、その他市民一般の方々です。南相馬市教育委員会を通した募集に応じた一行は、12月23日夕方、迎えの江ノ電バスに乗って藤沢に着いて遊行寺に3泊し、26日元気に帰りました。

初日の夜はお寺の大広間で歓迎夕食会が開かれ、翌24日は朝6時からお寺の勤行の後、餅つき大会に参加し、地元の小学生達と一緒になって元気に遊び回りました。この様子はNHKのニュースでも紹介されました。午後は、新江ノ島水族館へ出掛けてイルカ・ショーや巨大水槽の中で泳ぐサンタクロース姿の職員による丁寧な説明に感激しました。夕方は、藤沢教会で初めてミサに参加し、ミサの中でタム神父様が「福島の子ども達が来ていること」を紹介されました。日曜学校の子供達による聖劇を観賞した後、センターホールの交流会で食事を共にし教会が募集したホストファミリー6組19名やスタッフと大いに楽しみました。

交流会が始まる前に私が分り易いマジックを披露し、親子とも笑い転げました。子ども達が演技台の前にかぶりつき困りました。交流会の初めに鈴木神父様から「この体験を大切にしてください。いつか思い出して大きな力になることでしょう」と優しい挨拶を頂きました。

サンタさんの登場で大いにもりあがりました。サンタさんから東北被災地への想いを込めた短いメッセージとプレゼントをいただきました。そしてサンタさんの提案で「ハッピーバースディ・イエス」と大合唱しました。ビンゴでホスト・ファミリーの用意したプレゼントを頂き、クリスマス・ソングを歌いました。南相馬から来ていた子供たちがサンタさんからのプレゼントを開けてそれぞれがそばにいた浮田さんにお菓子のプレゼントをしました。子供たちの心を受けて、浮田久子さんは「これがクリスマスの意味です。ありがとう」と挨拶をされました。そして皆さんは満ち足りた穏やかな笑顔で遊行寺への帰路に着きました。なお、この日は約10名の方々が参加し料理を作りました。「何もできないから」とクッキーを届けてくださった方、袋詰めのお菓子を用意してくださった教会学校の保護者の方達、こうした方々の他に子供たちのケーキ代にとカンパをしてくださった方々もありました。

3日目の25日は自由行動日。全員が鎌倉で大仏を見た後、横浜へ行き中華街で昼食を味わいました。その後、みなとみらい21地区へ移動しランドマークタワーに登ったり、遊園地でジェットコースターやメリーゴーランドなど、自由に遊び回りました。その夜の懇親会で、南相馬の保護者の皆様から感想や意見をお聞きしました。今後の活動展開に活かす予定です。